

vol.49 2020 冬号 源流からのたより

ぽたい!

源流のひとしづく

三之公
山の神

新しい年をどんな年にしたいか!

Key Word

- 来年はどんな年?
- 「都市」と「源流学」
- 川上村と伝統野菜をみつめて
- 東熊野街道
- “新しい”のその先に?
- 水源地の森ツアーを再開しました
- 水生生物調査/未来への風景づくり見本園
草刈りボランティア



森と水の源流館

公益財団法人吉野川紀の川源流物語
住所 奈良県吉野郡川上村宮の平
TEL 0746・52・0888
FAX 0746・52・0388
URL <http://www.genryuu.or.jp>
E-mail morimizu@genryuu.or.jp

来年は、

なかなか見通しにくい社会の情勢であります

どんな年？

考えて、動いていく毎日に使いたいです。

公益財団法人 吉野川紀の川源流物語
事務局長 尾上 忠大

あけまして おめでとうございます。



グッドな年！

おかげさまで、昨年「環境白書」に「紀の川」の取り組みが取り上げられました。つづけてきた「つなぐ」活動を評価いただきました。時を刻み、つづけることは決して容易くはないですが、あらたな時代にも、ただひたむきに迷いつづけます。

公益財団法人 吉野川紀の川源流物語
森と水の源流館
〒639-3553 奈良県吉野郡川上村宮の平
電話：0746-52-0888 FAX：0746-52-0388
http://www.genryuu.or.jp 本館情報
新年は1月4日(土)より開館

刻

2019 平成 31 ★★元年

あけまして おめでとうございます。
おかげさまで、昨年は「環境白書」に「紀の川」の取り組みが取り上げられました。つづけてきた「つなぐ」活動を評価いただきました。時を刻み、つづけることは決して容易くはないですが、あらたな時代にも、ただひたむきに迷いつづけます。

公益財団法人 吉野川紀の川源流物語
森と水の源流館
〒639-3553 奈良県吉野郡川上村宮の平
電話：0746-52-0888 FAX：0746-52-0388
http://www.genryuu.or.jp 本館情報
新年は1月4日(土)より開館

私たちが川上は、これから育つ子どもたちが、自然の生命の躍動にすなおに感動できるような場をつくれます。

あけまして おめでとうございます。
ESD(Education for Sustainable Development)持続可能な社会づくりの強い手をお育ての推進をめざし、奈良教育大学を核として、教育機関や教育・学習施設、また企業などが参加するESD コンソーシアムに加わっています。そこで ESD 漢字として、森と水の源流館との連携による「授業づくりセミナー」を開催。奈良県内と和歌山県内の小学校の先生が、同じ源流川にある川上村で、水の恵みや吉野川分水をテーマとする授業をつくり、実践されています。

公益財団法人 吉野川紀の川源流物語
森と水の源流館
〒639-3553 奈良県吉野郡川上村宮の平
電話：0746-52-0888 FAX：0746-52-0388
http://www.genryuu.or.jp 本館情報
新年は1月4日(土)より開館

Let's communication! 2017



あけましておめでとうございます。
「酉」には「み」の音が含まれるので、自然の「実り」に水が加わり潤い、「実り」は人から人へと伝え、広がります。おかげさまで、今年は15周年。ますますコミュニケーションを高めて、つなぐことができます。どうぞよろしくお願い致します。

公益財団法人 吉野川紀の川源流物語
森と水の源流館
〒639-3553 奈良県吉野郡川上村宮の平
電話：0746-52-0888 FAX：0746-52-0388
http://www.genryuu.or.jp 本館情報
新年は1月4日(土)より開館

伸びる歳。

猿まね、猿知恵、猿芝居...
どうも巧くないイメージです。
たしかに、いまは知でも迷惑な存在です。
しかし人が進めばプラスのイメージにかわるかも。
課題解決を目指した「行動化」の一年にしたいと思います。

公益財団法人 吉野川紀の川源流物語
森と水の源流館
〒639-3553 奈良県吉野郡川上村宮の平
電話：0746-52-0888 FAX：0746-52-0388
http://www.genryuu.or.jp 本館情報
新年は1月4日(土)より開館

吉野川・紀の川源流には 豊かな自然の価値がぎゅう

あけまして おめでとうございます。
「水源地の村」から発信する「川上宣言」の3番目の約束は、「私たちが川上は、都市や平野部の人たちにも、川上の豊かな自然の価値にふれあってもらえるような仕組みづくりに努めます。」です。源流地域の自然や歴史、産業や人の魅力をいっしょに伝えてそれを美しく伝えていけるよう、今年も努力いたします。



公益財団法人 吉野川紀の川源流物語
森と水の源流館
〒639-3553 奈良県吉野郡川上村宮の平
電話：0746-52-0888 FAX：0746-52-0388
http://www.genryuu.or.jp 本館情報
新年は1月4日(土)より開館

あけまして おめでとうございます。

未来

持続可能な未来は、ぶれることのない原点の先にこそ倒れるとききました。「源流」の役割を本年もいっしょに考えましょう。



公益財団法人 吉野川紀の川源流物語
森と水の源流館
〒639-3553 奈良県吉野郡川上村宮の平
電話：0746-52-0888 FAX：0746-52-0388
http://www.genryuu.or.jp 本館情報
新年は1月4日(土)より開館

あけまして おめでとうございます。



2014年 水源地の村かわかみ

「馬を水辺に連れていっても、水を飲ませることはできない。」どれほど周囲の人に尋ねても、本人にその気がなければ、結果はでないということ。
おもしろくも、深いことわざです。この水辺をいかに活かすか、私たちのこれからのテーマでもあります。今年もよろしくお祝いします。

公益財団法人 吉野川紀の川源流物語
森と水の源流館
〒639-3553 奈良県吉野郡川上村宮の平
電話：0746-52-0888 FAX：0746-52-0388
http://www.genryuu.or.jp 本館情報
新年は1月4日(土)より開館



山村ならではのノウハウ(虎の巻)の発信をめざして!

公益財団法人 吉野川紀の川源流物語
森と水の源流館
〒639-3553 奈良県吉野郡川上村宮の平
電話：0746-52-0888 FAX：0746-52-0388 http://www.genryuu.or.jp

12年間ぶんのこの法人からの年賀状で振り返りました。

公益財団法人 吉野川紀の川源流物語
森と水の源流館
〒639-3553 奈良県吉野郡川上村宮の平
電話：0746-52-0888 FAX：0746-52-0388
http://www.genryuu.or.jp 本館情報
新年は1月4日(土)より開館

謹賀新年



私たちが川上は、かけがえのない水の恵みを受け、暮らすものとして、下流にはいつもきれいな水を届けたい。

公益財団法人 吉野川紀の川源流物語
森と水の源流館
〒639-3553 奈良県吉野郡川上村宮の平
電話：0746-52-0888 FAX：0746-52-0388
http://www.genryuu.or.jp 本館情報
新年は1月4日(土)より開館

流るる川、龍の如し。

はじまりの歳、はじまりの十周年。

新しい年のスタートです。おかげさまで、森と水の源流館も10歳に。川のはじまるこの地から、気持ちもあらたに、次へのはじまりの歩となる充実した年になるよう努めます。

公益財団法人 吉野川紀の川源流物語
森と水の源流館
〒639-3553 奈良県吉野郡川上村宮の平
電話：0746-52-0888 FAX：0746-52-0388
http://www.genryuu.or.jp 本館情報
新年は1月4日(土)より開館

謹賀新年

旧年中は大変お世話になりました。今年も山村ならではの魅力を大切に、もろもろと伝えていきたいと思います。どうぞよろしくお祈りいたします。

平成二十三年元旦

【千本橋き】せんべん-坊
川上村(うがわ)に百年以上前から伝わる豊後を頼り伝承行事。長い村で合間に合わせてみんなと一緒にお祈りをします。

公益財団法人 吉野川紀の川源流物語
森と水の源流館
〒639-3553 奈良県吉野郡川上村宮の平
電話：0746-52-0888 FAX：0746-52-0388
http://www.genryuu.or.jp 本館情報
新年は1月4日(土)より開館

川上村と大阪工業大学

連携授業

「川上村源流学」の内容を紹介

第一線で活躍する村民が先生

前号につづき、今号では大阪工業大学で開講された「川上村源流学」の授業の内容について紹介していきます。

新型コロナウイルスの影響で、オンライン授業となったものの、授業を進めていく上で目指したのは、川上村の取り組みをツールに、「持続可能な世界の担い手を育成する」こと。

7回の座学の中で、第一線で活躍するさまざまな価値観を持つ人と接しながら、自分だったら何ができるだろうと、自分に置き換えて考えるきっかけになるよう構成が考えられました。それではどんな授業が行われたのか、ダイジェストで紹介していきます。

第1回では、まずは村のガイダンスから。川上村水源地区の加藤満さんが「川上村とSDGs」これからのワクワクする未来はどんな未来」と題して、村の概要と、村の環境政策を振り返りつつ、未来に向け、源流の村が果たすべき役割、都市と共存する源流の姿について説明。「環境・経済・社会と課題は相互に連関・複雑化しているの、それぞれの分野を分けるのではなく、総合的な視点

が必要」と話しました。

第2回では、「ソトから見える川上村、地域おこし協力隊の視点」私たちにできることって何だろう」をテーマに新旧の地域おこし協力隊が登場。

現役の協力隊の越智佑子さんをコーディネーターに、現役で、やまいき市のプロジェクトに取り組み奥田絵さん、任期終了後も引き続き村で事業を行う、ヨイヨイかわかみの安田芳裕さん、Moon Roundの渡邊崇さんから、地域おこし協力隊制度を活用し、村で生活する「ヨソモノ」の視点からの水源地の村づくりについて学びました。

第3回では、村の基幹産業である吉野林業について。山守の玉井久勝さん、(一社)吉野かわかみ社の中上田一仁さんから、吉野林業の特徴である「密植、多間伐、長伐期」のことや、山林には治山治水機能・地球環境保全機能・持続可能な資源などとしての役割があることが紹介されました。

学生からは、吉野林業は、すでに100年〜200年を超えるビジネスモデルを行っていたこと、また木の端材を利用して割り箸が作られていることに、驚きのコメントがあったそうです。

第4回では、村民の困りごとの解決に注力する(二社)かわかみらいふの取り組みについて。中山間地域で、高齢化が進む川上村民の暮らしを支える仕組みとして、産官金労福と村民がともになって一般社団法人を設立。移動スーパーや宅配事業で買い物の利便を確保し、廃業予定だった村唯一のガソリンスタンドを継承し、新たな雇用の場と、地域内経済循環をつくりだしました。これらはあくまで

手段であり、住民との接点の機会をつくるコミュニティづくりが真の目的となっていることを紹介しました。

第5回では、村づくりを牽引する栗山忠昭村長が登場。大滝ダム建設の歴史的経緯を踏まえ、村づくりに込められた「おもい」を語りました。

昭和34年の伊勢湾台風の被害から、2つのダムを持つことになった川上村。歴史に翻弄されながらも、ダムを逆手に、水源地の村としての村づくりに着眼し、平成6年に第3次総合

計画「吉野川源流物語」を策定、平成8年に、「川上宣言」を発信。村民とともに「源流を守り、きれいな水を下流に流し続ける」覚悟を決め、平成11年には、吉野川(紀の川)の源流に位置する740haの水源地の森を購入するまでの経緯を説明しました。

第6回では、村づくりの基本となる「川上宣言」について、公益財団法人吉野川紀の川源流物語の尾上忠事務局長から、宣言に込められた「おもい」とともに、宣言の具現化として生まれた流域連携の取り組みなどが紹介されました。尾上事務局長は、「5つの宣言の中に含まれた言葉

の中に自分の役割を見出すことができるのが川上宣言であり、明確な目標。わかりやすい目標があることで、共有し、かたちにできるのです」と話しました。

第7回では、6回分の授業を振り返りながら、学生による村の振興に向けた提案につなげるアプローチの時間となりました。次号では、学生の提案について紹介します。(つづく)



画面の向こう側の学生に語りかける栗山村長

※連載はコミュニティーライターの西久保智美が担当します。

3.2. 上平豆とヒサヨ豆

上平豆とヒサヨ豆は、同じ秋豆の一種だ。同じ品種だが上平豆の方がさやが小さく実も小さい(写真2・写真3参照)。入ってきた年代が違い、上平豆は40年ほど前に、東吉野村から「上平さん」がもらって帰ってきたと言われている。一方、ヒサヨ豆は「ヒサヨさん」が知り合いからもらって帰ったもので、上平豆より後に入ってきたそうだ。地域の方によると、この2つの豆は同じ秋豆の一種であるが、入ってきた時期が異なるために特徴が異なると話す。2つの豆の面白いところは、同じ品種の豆を人の名前であけていることだ。素人目にはわからなくとも、豆を育てている人には同じ品種の豆でも異なる特徴があるため、上平豆／ヒサヨ豆は分類できるそうだ。



写真2. 上平豆 (左) とヒサヨ豆 (右)

4. 豆から考える伝統野菜の面白さ

今回取り上げた豆類の伝統野菜の興味深いところは、名前の由来だ(表2・3参照)。よど豆の場合は、年に2度収穫できるという特徴から、地域のなかで名付けられたことだ。上平豆／ヒサヨ豆に関しては、同じ秋豆の品種が入ってきた時期が異なるためにそれぞれの豆の特徴が異なり、現在でも持ち帰った人の名前と呼ばれていることだ。特に上平豆／ヒサヨ豆の例が物語っているように、タネを引き継いで育てている在来種の野菜は、地域の環境に根ざしてそれぞれの特徴が生まれてくると考えられる。伝統野菜とその名前の由来を知ることで、在来の野菜とその地域との関わりや地域の環境の特徴が少し垣間見えるのではないだろうか。

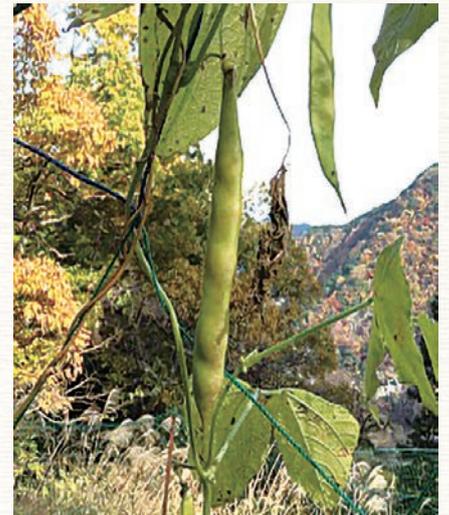


写真3. 上平豆のさや

表2. それぞれの豆の特徴

品名	タネまきの時期	収穫時期	特徴
よど豆	4月の山桜が咲く時期	7~8月、10月ごろ	いんげん豆の一種で年に2度収穫できる
上平豆	7月10日前後	10月ごろ	秋豆の一種でヒサヨ豆よりもさや・豆とも小さい
ヒサヨ豆	7月10日前後	10月ごろ	上平豆によく似ているが、さや・豆とも大きい

表3. 豆の名前の由来

品名	入ってきた時期	名前の由来
よど豆	不明	年に"2度"収穫できる特徴から
上平豆	40~50年ほど前	「上平さん」が持ち帰ったため
ヒサヨ豆	20~30年ほど前	「ヒサヨさん」が持ち帰ったため

参考文献

長谷川清美, 2016年,
『日本の豆ハンドブック』文一総合出版



川上村と伝統野菜をみつめて

—— 豆とその名前の由来から ——



奥田 絵 (地域おこし協力隊・やまいき市実行委員会)

1. 伝統野菜とは？

ここ数年、種子法や種苗法の改正が騒がれているなか、「伝統野菜」と呼ばれる野菜に注目が集まっている。伝統野菜は日本の各地域で古来から栽培されている在来種の野菜のことだ。京野菜や加賀野菜などが有名だが、伝統野菜の厳密な定義は各都道府県によって異なる。たとえば、奈良県では、結崎ネブカや片平あかね、下北春まなどといった野菜が「大和野菜」として伝統野菜とみなされている。奈良県での大和野菜の定義は、①戦前から県内でつくられているもの、②地域の伝統的・文化的な栽培方法で味や香り、野菜の来歴などに特徴を持っているものだとされている。

川上村でも、古くから地域のなかでタネが引き継いで育てている、伝統野菜と言ってもいい野菜がいくつかある。しかし、2020年12月現在、これらの野菜は大和野菜には認定されていない。そこで今回は、川上村の伝統野菜と考えられている野菜をいくつか取り上げ、野菜と人との関わりについて少し考えてみたい。

2. 川上村にある伝統野菜

川上村には、どんな伝統野菜があるのだろうか？川上村の野菜を扱っているやまいき市実行委員会では、奈良県内で野菜の専門家を呼んで、何度か調査をお願いしたことがある。その調査のなかで、伝統野菜と考えられるもの、ないし伝統野菜の可能性のある代表的なものを一覧表でまとめてみた（表1参照）。

他の地域でも栽培されている野菜もあれば、川上村にしかないもの、もしくは川上村も含めわずかな地域でしか育てられていない野菜もある。今回は、在来種の系統がばらばらで親豆の品種がわからないほどバラエティに富んでいると言われてる（長谷川 2016）豆類に着目する。特に、川上村の在来種の豆がどのように地域の人々と関わっているのかを、名前の由来から考えていく。

表1. 川上村の伝統野菜と考えられる野菜一覧

	名 称
専門家から伝統野菜だと確認されたもの	トウヂシャ
	みがらし
	バショウ菜
	チシャ
	よど豆
	上平豆
	ヒサヨ豆
	ハツ頭
	小芋
	親殺し
専門家から伝統野菜の可能性があるとされているもの	小菜
	こんにゃく
	山の芋
	とうきび
	きび
	なたね
油菜	
ねぎ	

3. 川上村の豆

3.1. よど豆

よど豆（写真1）はいんげん豆の一種で、白地に赤紫色の模様の野菜。4月の山桜が咲くころにタネをまき、7～8月に収穫する。また収穫時期に再度タネをまけば秋に採れる。川上村の山間部の集落で引き継がれているもので、この地域にしかない可能性がある。育てている人によると、年に“2度”収穫できることから、それがなまって“よど豆”と呼ばれていると話す。



写真1. よど豆を使った料理

”新しい”の先に？

自然、環境、歴史、文化、森と水の源流館は、新しい”発見への入口。それはここを訪れる皆様だけでなく、私たちにとつても同じことが言えます。

この夏に実施した1回1組5名様までの限定ツアー「きがるに川上さんぽ」の参加者に川上村出身の方がおられ、スタッフの方が言を教えていただく場面がありました。はさみ草、これはヤハズソウのことだそうです。葉を引つ張ると矢筈形に千切れることからこの和名が付きましました。しかし、なるほど、矢筈よりも鉄のほうの子供には分かりやすい。イタドリ、地方名イッタシコ、スカンボ、ゴンパチ、これらもまた別の方々から教えていただいたものです。

あるいは自然が気づかせてくれることでもあります。後ページにある未来への風景づくりの草刈りで白屋の集落跡を歩いていると、なんとウツギの花が咲いているではありませんか!? ウツギの花は卵の花とも呼ばれ



ナガレタゴガエル



ヤハズソウ

ます。そう、卯月（旧暦4月）、本来であれば初夏の頃に咲くものです。水源地の森ツアーの下見の時にはナガレタゴガエルの抱接が見られました。例年、早春のまだ源流の森の空気が凍えるほど寒いうちに見られる繁殖行動です。11月も下旬だというのに、ミソサザイのさえずりが聴こえる、タチツボスミレが咲いている、季節外れの、それが一カ月程度ならば風情があると流せることも、ここまでずれてくると恐ろしく感じます。そういえば、アブラチャンが咲いていると教えてくれたのはツアー参加者の方でした。今年は何かが変だ！生物たちはまだ夏と想っていたのか、もう春と間違えたのか、詳しく調べると原因が分かるかもしれないし、それぞれに専門家に話を伺ってみようと思います。ただし、こういった情報をもつと必要です。皆様の身近な自然や環境で季節外れのもの、今まで見たことがない昆虫、近頃見かけなくなった草花など、気づいたことがあればお知らせください。新しい”発見の先にあるものを一緒に探ってみましょう。

水源地の森ツアーを再開しました

新型コロナウイルス感染症対策の影響で、延期してきた水源地の森ツアーを9月13日に再開しました。業種別ガイドラインや試験的に実施した「きがるに川上さんぽ」での経験を参考に感染症対策を実施し、定員を半分にする一方で、バス移動を含めた密を避けて、スタッフと参加者の安全を確保しました。森での歩行中は、マスクをしたままだと熱中症などのリスクの方が高くなることから、マスクを取った上で距離を空けて歩くようにお願いしました。そうすると、列が長くなってしまふことから、スタッフが声を聞いてくくなる、後ろの方まで状況を把握するのが難しくなるなどいくつかの問題が想定されました。そこで、班の人数を絞り、ハンスフリースピーカーを導入し、大声を出さなくても参加者すべてに声が届くようになどの工夫をしました。

再開当日は、朝まで雨が降った影響でキャンセルがありましたが、何とか行事を再開でき、緊張しつつも大きな喜びを感じました。ツアー



9月13日の水源地の森

開始後は雨も上がり好天に恵まれました。雨に濡れたコケは緑が鮮やかで、森の中すべてが緑の世界になりました。人数を絞った分、当然参加者のみなさん一人一人の反応が大きく感じられるようになりました。その分、皆さんの興味がどこにあるのかをより一層感じ取ることができるようになりました。その後の11月3日のツアーも含め、参加者の皆さんから、森と水の源流館へ感想をメールでいただくことも以前より増えました。しばらくはウィズコロナかもしれないですが、その間は物理的には密を避けてですが、心はずつと密に行事を実施していくことになりました。それを、この先の行事等に活かしていきたいと思っております。



参加者みんなで記念写真



スタッフは距離を空けて案内しました

水生生物の調査を 実施しました

今年は、新型コロナウイルス感染拡大防止のため、例年の「吉野川紀の川しらべ隊」水生生物をしらべよう」は中止としましたが、8月10日に当館のスタッフで調査を実施しました。調査の結果、きれいな水にすむ生き物2種、ややきれいな水にすむ生き物13種が見つかりました。これまでに引き続き、きれいな水々やきれいな水に判定され、安定した水質環境であることがわかりました。

しかし、夏休みで公園利用者のゴミが目立つなど、下流にきれいな水を流し続けるために、考えていかなければいけないこともありました。



調査場所の様子

調査データ

調査日：2020年8月10日
場所：首無川（川上村西河、吉野川支流）
天候：晴れ
気温：33℃
水温：25℃
臭気：無し
ゴミ：公園利用者のゴミが目立つ
調査時間：13:30～15:00

きれいな水にすむ種類 (2種)	カジカガエル(幼生) サワガニ
ややきれいな水にすむ種類 (13種)	オナガサナエ※1 ダビドサナエ オジロサナエ ミヤマカワトンボ アサヒナカワトンボ ミルンヤンマ※2 ナベブタムシ※3 ガガンボのなかま※4 モンキマメゲンゴロウ※5 ハビトンボ※6 カワニナ カワヨシノボリ アブラハヤ
陸上で見られた昆虫 (9種)	コオニヤンマ ウスパキトンボ アキアカネ コアシナガバチ テングチョウ ニイニイゼミ アブラゼミ アサマイチモンジ ショウリョウバッタ



※1：オナガサナエ

※2：ミルンヤンマ

※3：ナベブタムシ

※4：ガガンボのなかま

※5：モンキマメゲンゴロウ

※6：ハビトンボ

未来への風景づくり 見本園草刈り ボランティア (9/26)

5名の参加者のみなさんとスタッフ3人とで、午前中は白屋の未来への風景づくり見本園の草刈りを行いました。6月はイベントとしては実施せず、職員が草刈りを頑張りましたので、今年初めて集まったの作業ができました。最初に、川上村が進めている「未来への風景づくり」の説明をした後、森と水の源流館の管理する見本園にて、カマを使って、草刈りを行いました。ちょうど、「森のおやつ」アケビが食べごろに熟していて、秋の味覚も楽しみました。

昼食を摂りながら、午後からは、外来種の駆除やゴミ拾いを行いながら、白屋の自然観察を楽しみました。外来種では、これまで抑えていた特定外来生物のナルトサワギクが入り口付近に復活している駆除を進めました。アメリカオニアザミについては、参加者のみなさんは容易に認識できるようになって、駆除がはかどりました。白屋ご出身の参加者もいらつしゃって、大滝ダム工事による地滑りで全戸移転する前や、昔の白屋の様子も興味深く聞かせていただきました。

終日、曇り空でしたが、終了間際に一瞬光が差し込み、おたき龍神湖の眺望も楽しめました。ご参加のみなさま、ありがとうございました。

源流人募集

源流人とは

かけがえのない水を生む源流の自然を愛し、源流を守り、育てる人です

源流人会とは

集い、話し、遊び、学び、考え、触れ、交流し、参加し、喜びを分かち合いながら、源流を守り、育ててゆこうとする会です

ともに源流学を楽しみ学ぶ仲間を紹介ください

年会費
個人 2,000円
家族 3,000円
学生 1,000円
団体 10,000円

郵便振替 00940-1-331163

もりもり 森守募金 にご協力ください

ありがとうございました。
2019年度、473,954円の森守募金をお預かりしました。

奈良県、和歌山県の紀の川流域市町村の小学校への教材印刷、水源地の森の啓発看板作成などを行いました。今後ともご支援よろしくお願ひします。

郵便振替 00950-2-331164「水源地の森守募金」あて

